

JESCO 豊田PCB廃棄物処理事業だより(No.251)

1. 豊田PCB処理事業部会を開催

1月8日に、令和6年度第2回「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会 豊田PCB処理事業部会」をWEB会議で開催しました。この部会は4名の学識経験者で構成され、環境省、愛知県及び豊田市もオブザーバーとして会議に参加しました。

会議では、当事業所内に保管する運転廃棄物の処理の進捗状況や設備の保全計画等を説明しました。

併せて、進行中の施設の解体撤去では、先行する北九州PCB事業所で得られた知見も活かして、進めていくことを説明しました。委員からは、「先行事例を反映し安全かつ合理的に工事を進めることは望ましい。」、また、「当事業所の経験や知見も積極的に情報公開を進めるように。」といった意見がありました。



2. 自動立体倉庫の解体撤去工事を進めています



(解体前の立体倉庫全景)

1月27日から、処理棟2階受入エリアにある自動立体倉庫の解体撤去工事を始めました。この倉庫は、多量に搬入されるコンデンサーなどのPCB廃棄物を、自動で搬送保管、PCB廃棄物の処理を計画的に効率よく進めるため、倉庫から搬出してPCBの無害化処理を進めるための設備でした。

毎日の作業前に、JESCO監督員と解体撤去工事業者の責任者、作業員の全員で、作業の内容と手順に加え、作業に潜む危険予知を相互に確認することで、安全に施工しています。また、作業前に確認した内容と現場の作業に相違がある場合には、必ず作業を止めて、危険予知を含めた作業手順の見直しを行い、トラブルの発生防止に努めています。



(解体作業の様子)

解体作業は、初めに自動立体倉庫を囲っていたシートを外し、作業場所を確保しました。次に倉庫前方の空きスペース側から安全に解体し、作業環境の安全を確保しながら効率的に解体しました。高所での作業や電動式切断工具の使用もあることから、事前に安全審査会を開いてリスクを特定し、対処方法を含めて手順を確認し作業を進めています。

3. 破碎機の配管等を洗浄した油の漏洩について

1月21日から23日に、処理棟4階の遮蔽フード内のPCB廃棄物洗浄前保管エリアにある破碎機を解体撤去する準備を行いました。準備作業として配管等の内部洗浄を行いました。作業終了後に破碎機の排液ポットの下に敷いていた紙ウエスに、油の付着を確認しました。廃液ポット横面にあるドレンプラグから油が漏れたものと推定しており、紙ウエスが湿る程度の微量で、洗浄液のPCB濃度の分析結果は435mg/kgであり、低濃度PCB油であることを確認しました。

その後速やかに遮蔽フード内の環境測定等を実施し、遮蔽フード内や作業場内の作業環境への影響もなく、施設外部へつながる2系の排気ラインへの影響も無かったことを確認しました。

現在、排液ポットを現場から取り出して、漏洩原因を調査する方向で作業を進めています。当該設備は今後解体撤去を行う設備であること、また排液ポット内部には残留液がない状況であることから、同様の漏洩が発生することはありませんが、今後、他の設備についても同様の漏洩等が発生しないよう、細心の注意を払って解体作業を進めます。



奥の排液ポットと手前の枠の間の状況
(左写真の青矢印方向から撮影)

4. 普通救命講習(心肺蘇生法とAED使用方法)を実施

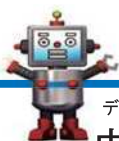
当事業所は万が一に備えAEDを設置しており、所員はAEDの操作や心肺蘇生を適切に行えるように、普通救命講習を2年ごとに受講しています。



(交代しながら胸骨圧迫を訓練する様子)

1月に4回実施した講習では、倒れた人の心肺蘇生が遅れると1分で10%救命率が下がり、意識がなくて呼吸に異常があれば、周囲に助けを要請して、まずは救急車の要請と胸骨圧迫(心臓マッサージ)を行うことを教わりました。

また、状況判断がつかない場合には、AEDを装着すれば必要な措置を診断してくれるので、救急隊の到着までAEDの指示に従って救命措置と胸骨圧迫を継続することを学びました。



デジ丸

中間貯蔵・環境安全事業株式会社 (JESCO)

豊田PCB処理事業所 電話：0565-25-3110 FAX：0565-24-0543

【豊田PCB処理事業HP】 <https://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>

問合せ先

アザランのびーちゃん

